

洋菓子職人として

自立めざそう



「スイーツ・コンソーシアム」修了式で力作のスイーツを披露する受講生たち＝仙台市内で

受講生ら力作披露

菓子職人の修了式
障害者の講習会

菓子職人として自立をめざす障害者を対象に、六月から約半年間行われた講習会「神戸スイーツ・コンソーシアム」の修了式が、仙台市内であった。

二〇〇八年にスタートし各地で開かれている講習会は、社会福祉法人「プロップ・ステーション」（神戸市、竹中ナミ理事長）と日清製粉が主催。今回は東京のほか、東日本大震災の被災地を支援しようと仙台を会場の一つにした。二会場をインターネット中継で結び、六回開催された。

修了式には両会場の受講生が参加。竹中理事長は「チャレンジド」と呼んでいる受講生たちを「被災地からおいしなお菓子を届ける使者として頑張っている」とたたえた。受講生の中から、最優秀賞に自立支援センター「加美・パルコ」（宮城県）を選んだ。講師の八木淳司さんは「激励の意味を込めて選んだ」と述べ、さらなる精進を期待した。会場では受講生たちが力作のスイーツを披露し合っていた。

（藤浪繁雄）